

6. 資料

1. 主な所蔵資料	181
1. 図書資料	181
2. その他	182
2. 研究所関係資料	183
1. 設立の経緯	183
2. 年代別重要事項	183
3. 歴代所長（昭和5年～令和元年度）	186
4. 名誉研究員	187
5. 令和元年度予算等	188
3. 東京文化財研究所関係事業索引	193

1. 主な所蔵資料

1. 図書資料

(1) 美術関係図書

日本・東洋・欧米の美術に関するものを中心に、各地方公共団体刊行の文化財関係調査報告書、展覧会の図録・目録類、売立目録など欧文合わせて約 170,398 冊の図書に加え、和文 5,471 種、韓文 54 種、中文 153 種、欧文 507 種に及ぶ美術関係雑誌約 166,976 冊を所蔵している。

その他江戸期の写本版本をはじめ、明治大正期刊行の大型美術図録や美術雑誌、また明治から昭和初期に開催された各種博覧会展覧会資料など、多くの貴重書を所蔵している。

(2) 無形文化遺産関係図書

古典芸能・民俗芸能・寺事・伝統的な技術、その他我が国の無形文化遺産の研究に必要な図書 18,481 冊を所蔵している。そのなかには、雅楽画報・演芸画報・歌舞伎新報・歌舞伎（第 1 次）・テアトロ（第 1 次）・新劇・上方・民俗芸能・日本民俗・芸能復興・郷土研究・旅と伝説など現在では入手しにくい雑誌、国立劇場ほかで行われる芸能公演の上演資料や声明本・謡本・囃子手付本・丸本などの台本・譜本など、多くの貴重書を含んでいる。令和元年度は 594 冊を登録し、現在進行中である。

(3) 保存科学・修復技術関係図書

伝統的生産及び工芸技術書、技術史またはそれらの科学的究明を試みたもの、修理工事報告書及び化学・物理学・生物学部門の保存科学の関連和洋書、合わせて約 10,100 冊を所蔵している。

(4) 日本国外の文化遺産関係図書

外国の文化財や文化財保存、文化財保存国際協力や文化財保護制度に関する国内外の図書資料を約 14,000 点所蔵している。また、文化財保護関連機関のパンフレットなど図書以外の文献資料の収集、さらに国内外の文化財保護関連法令資料の収集を実施している。2016（平成 28）年 1 月の施設改修に伴い、従来の国際資料室蔵書は資料閲覧室書庫に移動した。

令和元年度における収集数（韓文・中文図書は、和漢書として計上）

区 分	美術関係	無形文化遺産 関係	保存修復関係	日本国外の 文化遺産関係	計
和漢書	1,853 冊	589 冊	290 冊	90 冊	2,822 冊
洋 書	770 冊	5 冊	11 冊	12 冊	798 冊
合 計	2,623 冊	594 冊	301 冊	102 冊	3,620 冊

2. その他

(1) 美術関係資料

文化財情報資料部が管理している写真資料は、絵画・彫刻・工芸・建築等の台紙貼写真、売立目録カードなど総数約 26 万点である。写真原板は、モノクロ 4×5 フィルム約 49,740 点、カラー 4×5 フィルム約 8,980 点、半切ほかガラス乾板約 21,000 点をはじめとして、各種サイズのモノクロフィルム約 3,450 点、X線フィルム・赤外線フィルム約 3,300 点などを所蔵している。また、当研究所旧職員梅津次郎、秋山光和、田中一松、久野健、中村傳三郎各氏寄贈研究資料の公開に向けた整理のほか、鈴木敬氏旧蔵写真資料の整理を行っている。このほか、拓本類、作家伝記資料、落款印章資料、近現代作家・団体・画廊・作品資料、資料スクラップ等と図版カード、各種索引類などを管理している。

(2) 無形文化遺産関係資料

無形文化遺産部では、雅楽・能・歌舞伎・邦楽・寺院行事・民俗芸能その他の伝統芸能の技法を、録音・録画、写真撮影等の形で記録することを重要な業務としてきた。これまでに、現地での実況や所内の実演記録室等での演奏を記録したオープンリールテープ約 2,300 点、ビデオ 1,191 点、スチル写真は関連する文書の記録写真等も含め約 19 万点、CD はオープンリールテープをデジタル化した物を中心に 1,976 点、DVD 3,839 点、BD 752 点を作成してきた。令和元年度は、DVD 20 点、BD 32 点を登録した。また、市販された伝統芸能関係の資料の収集も進めている。ことに、昭和 35 年度文部省機関研究費によって購入した安原コレクションは、明治・大正・昭和 3 代にわたって発売された各種邦楽の SP レコードを網羅した約 6,000 枚の一大コレクションで、近代における邦楽の実態と変遷を知る上で貴重な資料である。レコードの収集枚数は現在約 7,300 枚に及んでいる。その他これまでに、市販のビデオ 530 点、CD 1,884 点、DVD 1,486 点、BD 7 点を収集してきた。うち令和元年度は、市販の CD 30 点、DVD 103 点、BD 2 点を登録した。なお SP レコードコレクションの詳細は『音盤目録Ⅰ～Ⅴ』（東京国立文化財研究所刊 1966～1996）で公表している。

(3) 保存科学・修復技術関係資料

保存科学研究センターでは、考古遺物や美術工芸品など、諸部門の文化財を撮影した X 線フィルムを多数所蔵する。X 線透過撮影は昭和 20 年代から力を注いで行っており、近年それらのデータをデジタル化し、整理する作業を進めている。

(4) 国際関係資料

文化遺産国際協力センターでは、日本の文化財保護に関する国際協力の分野で活躍した専門家の資料を受け入れている。関野克氏旧蔵資料には、国際機関での会議や、個別の文化遺産保存に関わる記録が含まれている。特に、UNESCO の条約や勧告に関わる資料には、草案や日本政府の意見書なども含まれ、その成立の経緯や日本政府の関与なども知ることができる。また、千原大五郎氏旧蔵資料には、ボロブドゥール修復事業関連の会議録、書簡類、修復案、図面、オランダ統治時代の研究書や、その他の東南アジア諸国の遺跡に関する文献や図面、写真も数多く含まれる。さらに、野口英雄氏が収集した、文化財の危機管理やユネスコ日本信託基金による保存修復事業などに関する資料を受け入れている。

2. 研究所関係資料

1. 設立の経緯

東京文化財研究所は、2001（平成13）年4月1日に東京国立文化財研究所が独立行政法人化され独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所となり、さらに2007（平成19）年4月1日に国立文化財機構東京文化財研究所となり、現在に至っている。その前身である東京国立文化財研究所は、1952（昭和27）年4月1日に発足し、その母体となったものは、1930（昭和5）年に創設された政府機関の帝国美術院附属美術研究所である。

この美術研究所は、1924（大正13）年7月、帝国美術院長子爵故黒田清輝の遺言により美術奨励事業のために寄附出捐した資金で遺言執行人が選択決定した事業である。すなわち遺言執行人代表伯爵樺山愛輔は、故子爵の遺志にしたがってこの資金で行うべき事業の選択を伯爵牧野伸顕に一任した。牧野伯爵は帝国美術院長福原鐸二郎及び東京美術学校長正木直彦とはかつて諸方面の意見を徴し、またわが国美術研究の必要に照らして次の事業を行うこととした。

- (1) 美術に関する基礎的調査研究機関として美術研究所を設けること。
- (2) 黒田子爵の作品を陳列して同子爵の功績を記念すること。
- (3) 前二項の目的を達するために適当な建物を造営すること。
- (4) 事業成立の上は一切これを政府に寄附すること。

2. 年代別重要事項

期 日	事 項
昭和元年12月25日	前記の事業を遂行するため委員会が組織され、東京美術学校長正木直彦が委員長に就任し、美術研究所事業については東京美術学校教授矢代幸雄、黒田子爵作品陳列については東京美術学校教授久米桂一郎・岡田三郎助・同和田英作・同藤島武二及び大給近清、建物造営については東京美術学校教授岡田信一郎、会計事務については遺言執行人打田伝吉を各委員として事務を分掌進行させた。
昭和2年 2月 1日 同年10月28日	美術研究所準備事業を開始した。 東京市上野公園内に鉄筋コンクリート造、半地階2階建、延面積1,192㎡の建物1棟を起工した（本館）。
昭和3年 9月	前記の建物が竣工したので、黒田記念館と名付け、美術研究所開設のため必要な備品・図書・写真等の研究資料を設備し、また館内に黒田子爵記念室を設け、黒田清輝の作品を陳列した。
昭和4年 5月29日	遺言執行人代表者樺山愛輔は、建物・設備・研究資料等一切の外に金15万円をそえて帝国美術院長に寄附を願い出た。
昭和5年 6月28日 同年10月17日	勅令第125号により帝国美術院に附属美術研究所が置かれ、東京美術学校長正木直彦が同研究所の主事に補せられた。 美術研究所開所式を挙行了た。
昭和7年 1月 1日 同年 4月18日 同年 5月26日	美術研究所の研究成果発表機関誌として、定期刊行物『美術研究』を創刊した。 株式会社朝日新聞社より明治大正美術史編纂費として本年から向う5か年間毎年5千円、合計2万5千円を帝国美術院に寄附したいとの申出があった。 帝国美術院はこの申出を受理した。 明治大正美術史編纂委員会規程を設け、美術研究所は明治大正美術史の編纂に関する事務を行うことになった。
昭和9年10月18日 昭和10年 1月28日	毎年10月18日を開所記念日と定めた。 鉄筋コンクリート造、2階建、延面積129㎡の書庫が竣工した。

期 日	事 項
昭和10年 4月 同年 6月 1日	『日本美術年鑑』の編纂事務を開始した。 勅令第148号により美術研究所官制が公布された。 研究資料閲覧規程を制定し、閲覧事務を開始した。
昭和12年 6月24日 同年11月29日	勅令第281号により美術研究所官制中改正の件が公布され、従来、帝国美術院に附置されていたのを文部大臣の直轄に改められた。 美術研究所長職務規程、美術研究所事務分掌規程が制定された。
昭和13年 2月12日	木造、平屋建、延面積97㎡の写真室1棟が竣工した。
昭和19年 8月10日	黒田清輝の作品、並びに写真原版を東京都西多摩郡小宮村谷間家倉庫に疎開した。
昭和20年 5月28日 同年 7～8月	美術研究所の図書・諸資料全部を山形県酒田市本町1丁目本間家倉庫3棟に疎開した。 酒田市本間家倉庫に疎開した図書資料を爆撃の危険を避けるため、さらに酒田市内牧曾根村松沢世喜雄家倉庫・観音寺村村上家倉庫・大沢村後藤作之丞家倉庫にそれぞれ分散疎開した。
昭和21年 3月29日 同年 4月 4日 同年 4月16日	酒田市疎開中の図書・諸資料等の東京向け発送を終了した。 酒田市疎開中の図書・諸資料等が東京に到着し、引揚げを完了した。 東京都西多摩郡に疎開中の黒田清輝作品並びに写真原版の引揚げを完了した。
昭和22年 5月 3日	美術研究所官制が廃止され、国立博物館官制が制定された。美術研究所は同館の附属美術研究所となった。 国立博物館に保存修理課発足。同課内に保存技術研究室を置いた（保存科学部の前身）。昭和23年度より専任の職員を配置し、研究を開始した。研究室は国立博物館本館地下の修理室の一室（66㎡）に設けた。
昭和25年 8月29日	文化財保護法の制定にともない、美術研究所は文化財保護委員会の附属機関となった。 文化財保護委員会事務局設置にともない、保存科学研究室は国立博物館保存修理課から文化財保護委員会事務局保存部建造物課に所属換えとなった。
昭和26年 1月31日	美術研究所組織規程が定められ、第一研究部・第二研究部・資料部・庶務室が置かれた。
昭和27年 4月 1日 同年 7月 1日	文化財保護法の一部が改正、東京文化財研究所組織規程が定められ、美術部・芸能部・保存科学部・庶務室の3部1室が置かれ、美術研究所組織規程が廃止された。 また文化財保護委員会事務局保存部建造物課保存科学研究室も廃止された。 芸能部研究室として東京藝術大学音楽学部邦楽科教室2室を同大学から借用し、研究を開始した。
昭和28年 4月26日	保存科学部研究室として、東京国立博物館構内の倉庫132㎡を改造のうえ移転した。
昭和29年 7月 1日	東京文化財研究所組織規程の一部が改正され、東京国立文化財研究所となった。
昭和32年 3月22日 同年11月30日	東京国立博物館構内に木造、外部鉄網モルタル塗、平屋建、8㎡の保存科学部の薬品庫が竣工した。 従来の2階建書庫の上にさらに1階を増築3階建とし、増築分延面積71㎡が竣工した。
昭和34年 4月30日	東京国立文化財研究所研究受託規程が定められ、この年度から受託研究が開始された。
昭和36年 9月16日	東京国立文化財研究所組織規程の一部が改正され、従来の庶務室は庶務課となった。
昭和37年 3月31日 同年 7月 1日 同年 7月20日	東京国立博物館内に保存科学部庁舎（保存科学部実験室）として、鉄筋コンクリート造、2階建、延面積663㎡の建物1棟が竣工した。 東京国立文化財研究所組織規程の一部が改正され、新たに保存科学部に修理技術研究室が置かれた。 芸能部研究室は、保存科学部庁舎の竣工にともない、旧保存科学部庁舎に移転した。
昭和43年 6月15日	文部省設置法の一部が改正され、本研究所は文化庁附属機関となった。
昭和44年 8月23日	保存科学部庁舎に隣接して新営される別館庁舎（延1,950.41㎡）の起工式が行われた。
昭和45年 3月25日 同年 5月 8日 同年 6月29日 同年11月 2日	前記の別館が竣工したので、同年5月26日竣工式が行われた。芸能部は、別館3階に移転した。 保存科学部は別館の地階～2階に実験用機械類の移転据付を完了した。 保存科学部庁舎の1階の模様替工事に着手し、同年10月15日工事が完了した。 所長及び庶務課は、本館から保存科学部庁舎の1階に移転した（本館は、美術部庁舎となる）。これにより研究所の所在地表示は「12番53号」から「13番27号」に変更された。

期 日	事 項
昭和46年 4月 1日	保存科学部庁舎及び別館の敷地 2,658㎡を東京国立博物館から所管換えされた。
昭和48年 4月12日	文部省設置法施行規則の一部が改正され、新たに修復技術部が設けられ4部1課となり、修復技術部に第一修復技術研究室及び第二修復技術研究室が置かれ、保存科学部修理技術研究室は廃止された。
昭和52年 4月18日	文部省設置法施行規則の一部が改正され、情報資料部の新設により5部1課となり、情報資料部に文献資料研究室及び写真資料研究室が置かれ、美術部資料室は廃止された。
昭和53年 3月20日	本館構内の写場等（木造、平屋建、延面積 144㎡）を取りこわし、情報資料部研究棟として、鉄筋コンクリート造、地下1階、地上3階、延面積 569.95㎡の建物が竣工した。
同年 4月 5日	文部省設置法施行規則の一部が改正され、新たに修復技術部に第三修復技術研究室が置かれた。
昭和59年 6月28日	文部省組織令が改正され、本研究所は文化庁施設等機関となった。
平成 2年10月 1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、新たにアジア文化財保存研究室が置かれ、5部1室1課となった。
平成 5年 4月 1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、アジア文化財保存研究室は、国際文化財保存修復協力室となった。
平成 7年 4月 1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、国際文化財保存修復協力室が廃止され、新たに国際文化財保存修復協力センターが設置された。同センターには、企画室及び環境解析研究指導室が置かれ、1センター5部1課となった。 東京藝術大学と「東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻の教育研究に対する連携・協力に関する協定書」が交わされ、連携併任分野として独立専攻大学院文化財保存学専攻（システム保存学）が設置された。
平成 9年10月 1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、国際文化財保存修復協力センターに保存計画研究指導室が置かれた。
平成12年 2月 4日	新宮庁舎として、鉄筋コンクリート造、地上4階地下1階、延面積 10,557.99㎡（建築面積 2,258.48㎡）が竣工した。
同年 2月21日	新宮庁舎の竣工にともない、別館（庶務課・芸能部・保存科学部・修復技術部・国際文化財保存修復協力センター）部分の移転が開始された。
同年 3月 6日	新宮庁舎の竣工にともない、本館（美術部・情報資料部）の移転が開始された。
同年 3月22日	建設省関東地方建設局営繕部より、新宮庁舎の外構工事、植栽等の引き渡しを受け、新宮庁舎関係の工事が完了した。
同年 5月11日	新宮庁舎の竣工を記念し、開所記念式典を挙行了した。 この式典の挙行に際し、毎年5月11日を開所記念日と定めた。
平成13年 3月29日	黒田記念館改修工事が竣工し、展示スペースが黒田記念室及び展示室の2室になった。
同年 4月 1日	東京国立文化財研究所は、奈良国立文化財研究所と統合され、独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所となった。 この独立行政法人化にともない、東京文化財研究所は、管理部、協力調整官—情報調整室、美術部、芸能部、保存科学部、修復技術部、国際文化財保存修復協力センターの1センター5部1協力調整官—情報調整室となった。
平成15年 9月19日	黒田記念館にエレベーターを設置し、門扉、外構の改修工事を行った。
平成18年 4月 1日	文化財研究所組織規程の一部が改正されて、協力調整官—情報調整室は企画情報部に、芸能部は無形文化遺産部に、国際文化財保存修復協力センターは文化遺産国際協力センターとなった。
平成19年 4月 1日	独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所は、独立行政法人文化財研究所と独立行政法人国立博物館との統合により、独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所となり、黒田記念館は、東京国立博物館に移管された。 この統合にともない、東京文化財研究所は、美術部を企画情報部に、保存科学部と修復技術部は保存修復科学センターに統合し、3部2センターとなった。
平成22年 4月 1日	国立文化財機構組織規程等の一部が改正されて、管理部は研究支援推進部となった。
平成28年 4月 1日	国立文化財機構組織規程等の一部が改正されて、企画情報部は文化財情報資料部に、保存修復科学センターは保存科学研究センターとなった。

3. 歴代所長（昭和5年～令和元年度）

役 職	氏 名	期 間
主 事	正木直彦	昭和 5. 6.28～昭和 6.11.24
主 事	矢代幸雄	昭和 6.11.25～昭和 10. 5.31
所長事務取扱	和田英作	昭和 10. 6. 1～昭和 11. 6.21
所 長	矢代幸雄	昭和 11. 6.22～昭和 17. 6.28
所長事務取扱	田中豊蔵	昭和 17. 6.29～昭和 22. 8.15
所 長	田中豊蔵	昭和 22. 8.16～昭和 23. 5.10
所 長 代 理	福山敏男	昭和 23. 5.11～昭和 24. 8.30
所 長	松本栄一	昭和 24. 8.31～昭和 27. 3.31
所長事務代理	矢代幸雄	昭和 27. 4. 1～昭和 28.10.31
所 長	田中一松	昭和 28.11. 1～昭和 40. 3.31
所 長	関野 克	昭和 40. 4. 1～昭和 53. 3.31
所 長	伊藤延男	昭和 53. 4. 1～昭和 62. 3.31
所 長	濱田 隆	昭和 62. 4. 1～平成 3. 3.31
所 長	西川杏太郎	平成 3. 4. 1～平成 8. 3.31
所 長	渡邊明義	平成 8. 4. 1～平成 13. 3.31
(独立行政法人文化財研究所 東京文化財研究所に移行)		
所 長	渡邊明義	平成 13. 4. 1～平成 16. 3.31
所 長	鈴木規夫	平成 16. 4. 1～平成 19. 3.31
(独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所に移行)		
所 長	鈴木規夫	平成 19. 4. 1～平成 22. 3.31
所 長	亀井伸雄	平成 22. 4. 1～平成 30. 7.17
所長事務代理	山梨絵美子	平成 30. 7.18～平成 30.12.31
所 長	齊藤孝正	平成 31. 1. 1～現在

4. 名誉研究員

氏 名	退 職 時 官 職 名	在 所 期 間	名誉研究員 発令年月日
江上 綏	情報資料部主任研究官	昭和 38. 5. 18～昭和 59. 3. 31	昭和 59.10.18
猪川和子	情報資料部文献資料研究室長	昭和 22. 6. 27～昭和 60. 3. 31	昭和 60.10.18
三隅治雄	芸能部長	昭和 27.10. 1～昭和 63. 3. 31	昭和 63.10.18
濱田 隆	所長	昭和 62. 4. 1～平成 3. 3. 31	平成 3.10.18
関口正之	美術部長	昭和 42. 2. 1～平成 3. 3. 31	平成 3.10.18
佐藤道子	芸能部長	昭和 34. 4. 1～平成 4. 3. 31	平成 4.10.18
馬淵久夫	保存科学部長	昭和 50.10. 1～平成 4. 3. 31	平成 4.10.18
新井英夫	保存科学部長	昭和 45. 9. 1～平成 5. 3. 31	平成 5. 4. 1
西川杏太郎	所長	平成 3. 4. 1～平成 8. 3. 31	平成 8. 4. 1
三輪英夫	美術部第二研究室長	昭和 53. 8. 1～平成 8. 3. 31	平成 8. 4. 1
蒲生郷昭	芸能部長	昭和 56. 4. 1～平成 10. 3. 31	平成 10. 4. 1
中里壽克	修復技術部第一修復技術研究室長	昭和 39. 4. 1～平成 10. 3. 31	平成 10. 4. 1
宮本長二郎	国際文化財保存修復協力センター長	平成 6. 4. 1～平成 11. 3. 31	平成 11. 4. 1
羽田 昶	芸能部音楽舞踊研究室長	昭和 51. 4. 1～平成 12. 3. 31	平成 12. 4. 1
中村茂子	芸能部民俗芸能研究室長	昭和 39. 7. 1～平成 13. 3. 31	平成 13. 4. 1
増田勝彦	修復技術部長	昭和 48. 8. 1～平成 13. 3. 31	平成 13. 4. 1
米倉迪夫	情報資料部長	昭和 50. 9. 1～平成 13. 3. 31	平成 13. 4. 1
星野 紘	芸能部長	平成 10. 4. 1～平成 14. 3. 31	平成 14. 4. 1
平尾良光	保存科学部化学研究室長	昭和 62. 4. 1～平成 15. 3. 31	平成 15. 4. 1
井手誠之輔	協力調整官一情報調整室長	昭和 62. 7. 1～平成 16. 3. 29	平成 16. 3. 30
斎藤英俊	国際文化財保存修復協力センター長	平成 11. 4. 1～平成 16. 3. 30	平成 16. 3. 31
西浦忠輝	保存科学部長	昭和 50. 7. 1～平成 16. 3. 31	平成 16. 4. 1
鈴木廣之	美術部日本東洋美術研究室長	昭和 54. 9. 1～平成 17.11.30	平成 17.12. 1
青木繁夫	文化遺産国際協力センター長	昭和 49. 7. 1～平成 19. 3. 31	平成 19. 3. 31
三浦定俊	副所長	昭和 48. 8. 1～平成 20. 3. 31	平成 20. 4. 1
鎌倉恵子	無形文化遺産部無形文化財研究室長	昭和 63. 4. 1～平成 20. 3. 31	平成 20. 4. 1
鈴木規夫	所長	平成 16. 4. 1～平成 22. 3. 31	平成 22. 4. 1
中野照男	副所長	平成 4. 4. 1～平成 23. 3. 31	平成 23. 4. 1
清水真一	文化遺産国際協力センター長	平成 19. 4. 1～平成 23. 3. 31	平成 23. 4. 1
石崎武志	副所長	平成 8.12. 1～平成 26. 9. 30	平成 26.10. 1
田中 淳	副所長	平成 6.11. 1～平成 28. 3. 31	平成 28. 4. 1
川野邊涉	文化遺産国際協力センター長	昭和 63.10. 1～平成 28. 3. 31	平成 28. 4. 1
岡田 健	保存科学研究センター長	平成 4. 4. 1～平成 29. 3. 31	平成 29. 4. 1
津田徹英	文化財情報資料部長	平成 11. 1. 1～平成 30. 3. 31	平成 30. 4. 1
飯島 満	無形文化遺産部長	平成 16. 4.16～平成31. 3. 31	平成 31. 4. 1
中山俊介	文化遺産国際協力センター長	平成 18. 2. 1～平成 31. 3. 31	平成 31. 4. 1
佐野千絵	保存科学研究センター長	平成 1. 4. 1～令和 2. 3. 31	令和 2. 4. 1

5. 2019（令和元）年度予算等

(1) 予 算

(単位：千円)

事 項	予 算 額
一般管理費	96,274
基礎研究事業費	63,349
応用研究事業費	105,922
国際遺産保護事業費	102,574
情報公開事業費	87,478
研修協力事業費	3,229
合 計	458,826

予算とプロジェクトとの対応

文化財情報資料部

略番	分 類 項 目	プロジェクト名	事 業 区 分
シ 01	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	情報公開事業費
シ 02	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	日本東洋美術史の資料学的研究	基礎研究事業費
シ 03	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	基礎研究事業費
シ 04	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	基礎研究事業費
シ 05	④情報収集・成果公開に関する事業	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	情報公開事業費
シ 06	④情報収集・成果公開に関する事業	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	情報公開事業費
シ 07	⑤刊行物に関する事業	平成29年版『日本美術年鑑』刊行事業・出版事業『美術研究』	情報公開事業費
シ 08	④情報収集・成果公開に関する事業	平成30年度オープンレクチャー（調査・研究成果の公開）	情報公開事業費

無形文化遺産部

略番	分 類 項 目	プロジェクト名	事 業 区 分
ム 01	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	無形文化財の保存・継承に関する調査研究	基礎研究事業費
ム 02	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	基礎研究事業費
ム 03	③国際協力・交流等に関する事業	無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	情報公開事業費
ム 04	⑤刊行物に関する事業	無形文化遺産部出版関係事業	情報公開事業費
ム 05	③国際協力・交流等に関する事業	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	国際遺産保護事業費

保存科学研究センター

略番	分 類 項 目	プロジェクト名	事 業 区 分
ホ 01	②保存修復に関する調査研究事業	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	応用研究事業費
ホ 02	②保存修復に関する調査研究事業	保存と活用のための展示環境の研究	応用研究事業費
ホ 03	②保存修復に関する調査研究事業	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	応用研究事業費
ホ 04	②保存修復に関する調査研究事業	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	応用研究事業費
ホ 05	②保存修復に関する調査研究事業	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	応用研究事業費
ホ 06	②保存修復に関する調査研究事業	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	応用研究事業費
ホ 07	⑤刊行物に関する事業	『保存科学』第58号の出版	情報公開事業費
ホ 08	⑥指導助言・研修等に関する事業	博物館・美術館等保存担当学芸員研修	研修協力事業費

文化遺産国際協力センター

略番	分類項目	プロジェクト名	事業区分
コ01	④情報収集・成果公開に関する事業	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	情報公開事業費
コ02	③国際協力・交流等に関する事業	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	国際遺産保護事業費
コ03	③国際協力・交流等に関する事業	保存修復技術の国際的応用に関する研究	国際遺産保護事業費
コ04	③国際協力・交流等に関する事業	在外日本古美術品保存修復協力事業	国際遺産保護事業費
コ05	③国際協力・交流等に関する事業	国際研修	国際遺産保護事業費

(2) 科学研究費助成事業交付一覧

(単位：千円)

研究課題	研究代表者	交付額
基盤研究（B）		
対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究—大航海時代を中心に—	小林公治	2,730
日本美術の記録と評価についての研究—美術作品調書の保存活用	江村知子	8,840
絵画に使用された絹・自然布の非破壊分析方法の開発と製法・修復に関する総合的調査	早川典子	10,270
基盤研究（B）海外		
ポンペイ及びエルコラーノ遺跡壁画保存修復新技法開発と遺跡保存管理体制の確立	前川佳文	3,120
基盤研究（C）		
黒髪白肌の系譜—上村松園の技法と表現—	大河原典子	(589)
徳川将軍家の御物形成と御用絵師の役割に関する研究	小野真由美	(1,019)
ザグロス地域における農耕・牧畜の起源に関する考古学的研究	安倍雅史	1,430
常磐津節の音楽分析のための基盤研究	前原恵美	1,170
江戸時代の絵画における基底材に関する基礎的研究	安永拓世	1,300
ポスト1968年表現共同体の研究：松澤宥アーカイブズを基軸として	橘川英規	1,690
DNA 塩基配列情報に基づく文化財害虫の新規データベース構築	佐藤嘉則	1,170
博物館 IPM への ATP 拭き取り検査活用に向けた基礎的な研究	間瀬創	1,300
白色 LED 光照射に伴う蛍光性有機染料の変退色挙動とその抑制	吉田直人	650
鍾乳洞における照明植生を軽減する光環境に関する実験的研究	朽津信明	1,950
挑戦的研究（萌芽）		
紙本屏風の規格と表現・技法の研究	江村知子	1,430
若手研究（B）		
紙質文化財にみられる緑青焼けに対する修復処置方法の開発	貴田啓子	(460)
イラン歴史的都市景観保護のための計画指標に関する研究	山田大樹	(163)
若手研究		
マヤ地域の博物館における文化遺産保全と地域発展に向けた文化資源マネジメントの研究	五木田まきは	1,040
伝統的木造建築技術の保存継承に関する日欧比較研究	マルティネス アレハンドロ	910
中世日本における中国美術の受容と羅漢の作例に関する調査研究	米沢玲	780
セルロースナノファイバーによる紙質文化財クリーニング手法の開発	貴田啓子	2,470
木材からの化学物質放散挙動の解明と博物館における選定指標の提案	古田嶋智子	1,950
古典的膠の製造方法と各用途適性の体系化	宇高健太郎	1,560
研究活動スタート支援		
近現代建造物に適応した文化財保存理念の展開に向けた基礎的研究	金井健	1,040
歴史的煉瓦造建造物の保存に資する、煉瓦の電気的特性が塩類風化に及ぼす影響の解明	水谷悦子	1,430

※複数年度にまたがる事業については括弧内に予算総額を記載

研 究 課 題	研究代表者	交付額
研究成果公開促進費		
SAT 大正新脩大藏經 画像データベース	津田徹英	4,500

(3) 受託調査研究一覧

(単位：千円)

研 究 課 題	依 頼 元	研究担当者	契約総額
文化遺産国際協力コンソーシアム事業	文化庁	友田正彦	43,989
文化遺産国際協力拠点交流事業 「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」	文化庁	友田正彦	19,329
文化遺産国際協力拠点交流事業 「ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業」	文化庁	金井健	9,341
国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務	文化庁	佐野千絵	35,625
特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務	文化庁	佐野千絵	18,671
「ポーランド・クラクフにおける文化財保存技術発信・交流事業」 運営実施業務	文化庁	加藤雅人	24,316
「美術工芸品保存修理用具・原材料調査事業」実施業務	文化庁	早川典子	4,039
被災資料有害物質発生状況調査業務	陸前高田市	佐野千絵	3,521
シルクロードが結ぶ友情プロジェクト シリア人専門家研修 (歴史的都市及び建築物の復興に向けた調査計画手法)	奈良県立 橿原考古学研究所	安倍雅史	3,000
遺産影響評価のための世界遺産と開発事案等の関係に関する基 礎調査	株式会社 三菱総合研究所	西和彦	1,500

(4) 共同研究等一覧

(単位：千円)

研 究 課 題	相 手 先	研究担当者	金 額
文化財修理に使用する膠の製造に関する技術開発、研究	一般社団法人国宝修理装飾師連盟	早川典子	150
二国間交流事業共同研究・セミナー「浮世絵版画の染料 同定と摺り技術解明」	独立行政法人日本学術振興会	貴田啓子	980
航空資料保存の研究	一般財団法人日本航空協会	早川泰弘	400
ゲッティ・リサーチポータルへのデジタル資料の提供・ 公開	The J. Paul Getty Trust	江村知子	4,741
			(9,919)

※複数年度にまたがる事業については括弧内に予算総額を記載

(5) 助成金一覧

(単位：千円)

研 究 課 題	助 成 元	研究代表者	助成額
バガン遺跡群（ミャンマー）寺院祠堂壁画の保存修復	公益財団法人住友財団	前川佳文	3,500
日本の伝統的な笛の演奏と竹素材の特性に関する研究	公益財団法人 花王芸術・科学財団	前原恵美	500
小山真由美著『南蛮漆器考一時代の遺品と記録― 天正・慶長 遣欧使節の時代』の英訳事業	公益財団法人 東芝国際交流財団	小林公治	1,500
外国人研究者招致 (2019年10月6日～10月12日 パオロ・クレモネージ氏)	公益財団法人文化財保 護・芸術研究助成財団	早川典子	350

Micro Slurry-jet Erosion 試験による漆塗膜の硬度比較に関する研究	京都市・山本文二郎漆科学研究所助成事業委員会	倉島玲央	250
日本の伝統的な管楽器の演奏と竹材の特性に関する研究	公益財団法人ポーラ伝統文化振興財団	前原恵美	300
旧和宇慶家墓の人文学的調査研究	琉球大学島嶼地域科学研究所個人型共同利用	牛窪彩絢	150

(6) 寄付金一覧

(単位：千円)

研 究 課 題	寄 付 者	担当部局	受入額
東京文化財研究所における研究事業の助成	株式会社東京美術倶楽部	文化財情報資料部	1,000
東京文化財研究所における研究成果の公表(出版事業)	東京美術商協同組合	文化財情報資料部	1,000
「各国の文化財保護法法令シリーズ [23] ポーランド」の出版への助成	ポーランド広報文化センター	文化遺産国際協力センター	149

年度内主要事業一覧

期 日	事 業 名
31 年 4 月 13 日	国際シンポジウム「メソポタミア文明の遺産を未来へ伝えるためにー歴史教育を通じた戦後イラクの復興への挑戦」
31 年 4 月 22 日	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会研究所・センター調査研究等部会
1 年 5 月 9 日	湿度制御温風殺虫処理に関する専門家研究集会
1 年 5 月 11 日~12 日	東京シシマイコレクション 2020 プレ (東京国立博物館)
1 年 5 月 30 日	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会総会 (東京国立博物館)
1 年 6 月 11 日~15 日	研修「壁画保存に向けた応急処置方法の検討と実施」(トルコ・聖テオドラ(タガール) 教会)
1 年 6 月 21 日	文化財防災に関する研究協議会
1 年 6 月 24 日	「ブータンの歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業」に係る専門家会合
1 年 7 月 8 日~19 日	博物館・美術館等保存担当学芸員研修
1 年 7 月 11 日~27 日	ワークショップ「壁画を有する煉瓦造寺院外壁の保存修復」「壁画保存修復」(ミャンマー宗教文化省考古・国立博物館局バガン支局)
1 年 7 月 23 日	ミニシンポジウム「戦後日本美術アーカイブズの研究活用に向けてー松澤宥アーカイブを例に」
1 年 7 月 24 日	文化遺産国際協力コンソーシアム第 25 回研究会「文化遺産保護の国際動向ー世界文化遺産・無形文化遺産・水中文化遺産ー」
1 年 7 月 24 日 ~8 月 6 日	シリア人専門家研修「歴史的都市および建造物の復興に向けた調査計画手法」
1 年 7 月 29 日~30 日	国際集会「日本絵画の修復」(ポーランド・日本美術技術博物館 Manggha)
1 年 8 月 14 日~16 日 19 日~23 日	ワークショップ「染織品の保存と修復」(國立臺灣師範大學文物保存維護研究發展中心)
1 年 9 月 8 日	第 4 回箕の研究会
1 年 9 月 9 日~27 日	国際研修「紙の保存と修復」
1 年 9 月 10 日	国際シンポジウム「博物館とその周辺のエジプト学研究的最新線」
1 年 9 月 20 日	世界遺産研究協議会「遺産影響評価とは何か」
1 年 10 月 7 日~10 日	国際研修「染織文化遺産保存修復ワークショップ」(アルメニア・エチミアジン大聖堂、同国歴史文化遺産科学研究センター)
1 年 10 月 8 日~10 日	文化財修復処置に関するワークショップ ーゲルを使用した修復処置ー

期 日	事 業 名
1 年10月 11 日	文化財修復処置に関する研究会 ークリーニングとゲルの利用についてー
1 年10月 30 日 ～11月 13 日	国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」(メキシコ・CNCPC-INAH)
1 年11月 1 日～ 2 日	第53回オープンレクチャー「かたちからの道、かたちへの道」
1 年11月 25 日～29 日	博物館の環境管理に関するイラン人専門家研修
1 年12月 1 日	文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム「文化遺産の意図的な破壊―人はなぜ本を焼くのか―」(政策研究大学院大学 想海樓ホール)
1 年12月 2 日	文化財の記録作成とデータベース化に関するセミナー
1 年12月 2 日～ 6 日	ワークショップ「漆工品の保存と修復」(ドイツ・ケルン市博物館東洋美術館)
1 年12月 17 日～18 日	国際研究者フォーラム「無形文化遺産研究の展望―持続可能な社会にむけて
1 年12月 19 日	令和元年度防災ネットワーク推進事業研修会「北海道における文化財防災を考える」(北海道立近代美術館)
1 年12月 20 日	第14回無形民俗文化財研究協議会「無形文化遺産の新たな活用を求めて」
2 年 1 月 5 日	カトマンズ及びカブレ盆地の歴史的集落保全に関する第3回市長会議 (ネパール・キルティプル市)
2 年 1 月 16 日	「伝統民家の保存と活用に関するワークショップ」(ブータン内務文化省文化局)
2 年 1 月 18 日	東京シシマイフォーラム (東京シシマイコレクション2020 プレ)
2 年 1 月 31 日	国際シンポジウム「アラビア半島の考古学―オーストリア隊と日本隊の最新の成果から」
2 年 1 月 31 日	文化遺産国際協力コンソーシアム第26回研究会「文化遺産とSDGs II―世界では、いま何が語られているのか―」(JPタワー ホール&カンファレンス)
2 年 2 月 6 日	第13回東京文化財研究所無形文化遺産部公開学術講座「染織技術を支える草津のわざ 青花紙―花からつくる青色―」
2 年 2 月 6、14、21 日	「無形文化遺産の防災」連絡会議

※東京文化財研究所での開催の場合、開催場所の表記を省略

3. 東京文化財研究所関係事業索引

凡 例

- (1) この索引は、令和元年度に東京文化財研究所が実施したすべての事業を、財源の種類を問わず網羅している。
(2) 事業は五十音順に配列し、各事業名称の末尾に次の略号を付すとともに、掲載頁を示した。

	運営費交付金によるプロジェクト……………	【交付】	
	科学研究費助成事業……………	【科研】	
	受託調査研究……………	【受託】	
	共同研究……………	【共同】	
	助成金……………	【助成】	
	その他の調査研究……………	【その他】	
あ	アジア諸国等文化遺産保存修復協力……………	【交付】	49
	遺産影響評価のための世界遺産と開発事案等の関係に関する基礎調査……………	【受託】	120
	イラン歴史的都市景観保護のための計画指標に関する研究……………	【科研】	98
	江戸時代の絵画における基底材に関する基礎的研究……………	【科研】	89
	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究……………	【交付】	44
か	絵画に使用された絹・自然布の非破壊分析方法の開発と製法・修復に関する総合的調査……………	【科研】	83
	外部資金等による研究活動の成果公開……………	【科研・受託・共同・助成・その他】	134
	旧和宇慶家墓の人文的調査研究……………	【助成】	131
	近現代建造物に適應した文化財保存理念の展開に向けた基礎的研究……………	【科研】	105
	近・現代美術に関する調査研究と資料集成……………	【交付】	37
	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究……………	【交付】	46
	黒髪白肌の系譜—上村松園の技法と表現—……………	【科研】	85
	Getty・リサーチポータルへのデジタル資料の提供・公開……………	【共同】	123
	航空資料保存の研究……………	【共同】	122
	国際研修……………	【交付】	52
	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務……………	【受託】	114
	古典的膠の製造方法と各用途適性の体系化……………	【科研】	104
	小山真由美著『南蛮漆器考—天正・慶長遣欧使節の時代の遺品と記録』の英訳事業……………	【助成】	127
さ	SAT大正新脩大藏經 圖像データベース……………	【科研】	107
	在外日本古美術品保存修復協力事業……………	【交付】	51
	ザグロス地域における農耕・牧畜の起源に関する考古学的研究……………	【科研】	87
	紙質文化財にみられる緑青焼けに対する修復処置方法の開発……………	【科研】	97
	鍾乳洞における照明植生を軽減する光環境に関する実験的研究……………	【科研】	94
	紙本屏風の規格と表現・技法の研究……………	【科研】	95
	シルクロードが結ぶ友情プロジェクト シリア人専門家研修……………	【受託】	119
	セルロースナノファイバーによる紙質文化財クリーニング手法の開発……………	【科研】	102
	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充……………	【交付】	55
た	対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究—大航海時代を中心に—……………	【科研】	81
	中世日本における中国美術の受容と羅漢の作例に関する調査研究……………	【科研】	101
	DNA塩基配列情報に基づく文化財害虫の新規データベース構築……………	【科研】	91
	伝統的木造建築技術の保存継承に関する日欧比較研究……………	【科研】	100
	東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進……………	【交付】	75
	『東京文化財研究所概要』、『TOBUNKENNEWS』……………	【交付】	68
	常磐津節の音楽分析のための基盤研究……………	【科研】	88
	徳川將軍家の御物形成と御用絵師の役割に関する研究……………	【科研】	86

特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務	【受託】 115
--------------------	----------

な 二国間交流事業共同研究・セミナー「浮世絵版画の染料同定と摺り技術解明」	【共同】 124
日本東洋美術史の資料学的研究	【交付】 36
日本美術の記録と評価についての研究－美術作品調書の保存活用	【科研】 82
日本美術の魅力（在外古美術品保存修復協力事業による修復作品里帰り展）	【その他】 134
日本の伝統的な管楽器の演奏と竹材の特性に関する研究	【助成】 130
日本の伝統的な笛の演奏と竹素材の特性に関する研究	【助成】 126

は バガン遺跡群（ミャンマー）寺院祠堂壁画の保存修復	【助成】 125
白色LED光照射に伴う蛍光性有機染料の変退色挙動とその抑制	【科研】 93
博物館IPMへのATP拭き取り検査活用に向けた基礎的な研究	【科研】 92
博物館・美術館等保存担当学芸員研修	【交付】 71
被災資料有害物質発生状況調査業務	【受託】 118
美術館・博物館等の環境調査と援助・助言	【交付】 74
「美術工芸品保存修理用具・原材料調査事業」運営実施業務	【受託】 117
美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	【交付】 38
プロジェクトの一環として刊行された刊行物	【交付】 68
プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等	【交付】 59
文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」	【受託】 112
文化遺産国際協力拠点交流事業「ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業」	【受託】 113
文化遺産国際協力コンソーシアム事業	【受託】 111
文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	【交付】 58
文化財修理に使用する膠の製造に関する技術開発、研究	【共同】 121
文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	【交付】 45
文化財修復処置に関するワークショップ－ゲルやエマルションを使用したクリーニング方法－	【助成】 128
文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	【交付】 53
文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	【交付】 35
文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	【交付】 43
文化財の材質・構造に関する調査・助言	【交付】 74
文化財の収集・保管に関する指導助言	【交付】 71
文化財の修復及び整備に関する調査・助言	【交付】 73
文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	【交付】 41
文化財の虫菌害に関する調査・助言	【交付】 72
文化財防災ネットワーク推進事業	【その他】 132
文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	【交付】 47
平成31年度オープンレクチャー（調査・研究成果の公開）	【交付】 56
平成30年版『日本美術年鑑』刊行事業・出版事業『美術研究』	【交付】 67
ポスト1968年表現共同体の研究：松澤有アーカイブズを基軸として	【科研】 90
『保存科学』第59号の出版	【交付】 67
保存修復技術の国際的応用に関する研究	【交付】 50
保存と活用のための展示環境の研究	【交付】 42
ポンペイ及びエルコラーノ遺跡壁画保存修復新技法開発と遺跡保存管理体制の確立	【科研】 84
「ポーランド・クラクフにおける文化財保存技術発信・交流事業」運営実施業務	【受託】 116

ま Micro Slurry-jet Erosion 試験による漆塗膜の硬度比較に関する研究	【助成】 129
マヤ地域の博物館における文化遺産保全と地域発展に向けた文化資源マネジメントの研究	【科研】 99
無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	【交付】 57
無形文化遺産に関する助言	【交付】 72
無形文化遺産部出版関係事業	【交付】 67
無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	【交付】 48
無形文化財の保存・継承に関する調査研究	【交付】 39
無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	【交付】 40
木材からの化学物質放散挙動の解明と博物館における選定指標の提案	【科研】 103

ら 歴史的煉瓦造建造物の保存に資する、煉瓦の電気的特性が塩類風化に及ぼす影響の解明	【科研】 106
---	----------